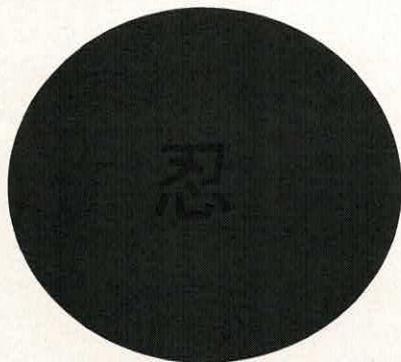


忍者・忍術の起源伝承



甲賀忍之傳宗師家
川 上 仁 一

1、忍術・忍者の起源と発達

大陸よりの伝來說……武経七書の間諜

(殊に孫子兵法の用間篇)

遁甲方術の伝来(日本書紀)

我国で独自に発達……日本の思考や習慣

- ・気候、風土、心性、地政など。
- ・間諜の訓に窺見(うかみ)
- ・中国兵法は支配層のもの。
- ・殊更に伝来を説くのは?
- ・奈良時代以降の記録に無い。
- ・中世に「忍び」が現れる。

(太平記に記載が初出)

2、忍者、忍術関連史

- ・原始狩猟採集生活 → 農耕定住 → 閩争社会
- ・(古代の窺見 → 中世の忍び → 忍者)
- ・古代からの争乱(間諜の活動)
- ・平安時代以降の国風重視策(日本文化の醸成)
- ・荘園制と武士の発生(悪党の起り)
- ・民衆自立と戦闘集団の支配
- ・群雄割拠の争乱の時代(一揆、惣や侍衆と忍び)
- ・平和安定の武家社会の時代(忍術の大成化)
- ・近代国家形成の時代(欧米式軍制と忍者の終焉)
- ・消滅の時代より現代の多用な忍者文化に発展

3、忍者発生の背景

- ・伊賀、甲賀は多様な人々、知識、技能が集積。
- ・独立志向の強い村落共同体の伊賀・甲賀の地域。
- ・渡来の人々も多数定住し、事物と共に融合同化。
- ・古代に斥侯(窺見)などを配する軍制が布かれる。
- ・通信手段として烽候(とぶひのうかみ)を設置。
- ・神、儒、仏一体の宗教観の日本人への影響。
- ・「和を以て貴しと為す。(聖徳太子の憲法)
- ・修驗道との関わり。(業や信仰、思想、知識など)
- ・東大寺の杣や荘園制。
- ・荘園制が乱れて崩壊し、武士団が発生。(武力闘争)
- ・荘園領主の支配を排除する悪党の出現。

- ・浄土教の布教による民衆の自立や集団行動。(伊賀)
- ・悪党行為(権力への武力での対抗)の常態化。
- ・武力闘争の中より情報操作や撹乱技術が蓄積。
- ・南北朝の争乱頃より「忍び」の働きが顕れるか。
- ・応仁の大乱以降、伊賀・甲賀での群小土豪の争い。
- ・偵察を行い、撹乱・奇襲する独自の兵法が発達。
- ・戦国以降より職能としての「忍びの者」が現れるか。
- ・戦国期に於ける、甲賀郡中惣・伊賀惣国一揆の形成。
- ・民衆自治の共和体制を確立。(伊賀・甲賀の連携)
- ・江戸期に儒学思想も取り入れ、忍術として集大成。

4、忍者と間諜(間者)の相違

- ・忍術は間諜の手段を包含した、具体的な総合生存術技である。(民衆の自存、自衛手段より起る)
- ・忍者は、忍びの術を駆使し業(職)とする者。
- ・中国兵法の間諜は為政者の支配手段により編成。
- ・間諜は特殊技術としての忍術を会得してない者を多く含む。
- ・間諜は情報収集を主とし、現代のスパイそのもの。
- ・スパイは忍者の行為の一部を構成したもの。
- ・忍者は家伝として忍術を伝え、集団としても存在。
(これは江戸期よりの伝承ではある。)

5、間諜の記録例(日本)

- ・推古天皇九年(601)
- ・九月辛巳戌子 新羅之間諜者迦摩多到対馬。
- ・則捕以貢之 流來于上野 (日本書紀)
- ・天武天皇元年(672) 壬申の乱の記事
- ・春三月…自近江京至倭京 処々置候
(日本書紀)
- ・天平十二年(740) 藤原広嗣の乱の記事
- ・九月二十四日…又間諜申云 広嗣於遠珂郡家造
- ・軍當儲兵弩 而拳烽火 微發国兵矣 (続日本紀)
○ 間諜、候は窺見(うかみ)と訓ずる。

6、起源伝承の要点

- ・江戸時代成立の伝書類に記載があるが信憑性は無い。
(忍術は江戸時代に呼称された術技である。)
- ・より古い時代からの伝来として權威付けを行なっている。
(神代や中国に起源を求める。)
- ・神代より神々からの伝来としたり、著名人を祖として仮託する。
(義経、正成等)
- ・実際の存在不明な人物を祖とする。(万川集海に載る、伊賀、甲賀の人物に、実在の可能性がある人物を含む。)
- ・多くは忍術・武術・兵法の伝書や家系図、由緒書、軍記等の記載、口承によるものである。

7、忍びの古伝承

- ・素戔鳴尊が奇稻田姫を湯津爪櫛に化身させる。
- ・高皇產靈尊が無名雉を遣い様子を探らせる。
- ・神武天皇東征の際、椎根津彦や弟猾の謀と変装での敵地潜入。
- ・頭八咫烏、日臣命に嚮導させ敵を討つ。
- ・道臣命は密策(しのびのみことのり)により諷歌倒語で妖氣を掃蕩。……甲賀伴氏の忍術起源説。(日本書紀)
- ・大己貴命、少彦名命の蜘蛛縛、熊曾絞。(甲賀流忍術伝書)
等々

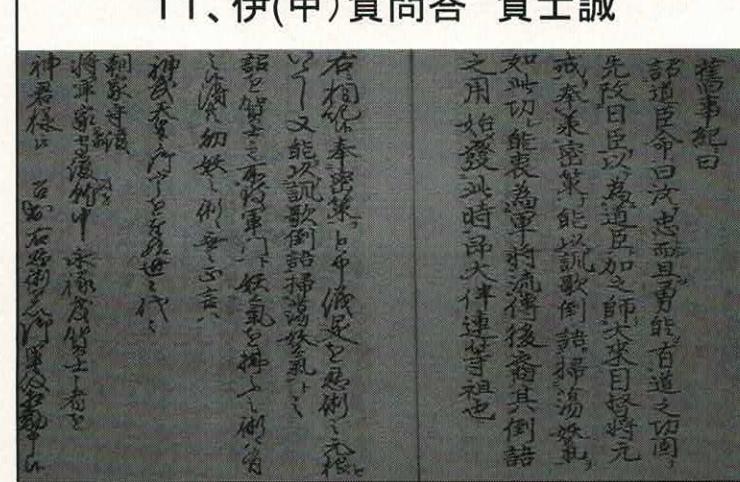
尾張藩忍術伝書



武門必要神秘忍術



11、伊(甲)賀問答 賀土誠



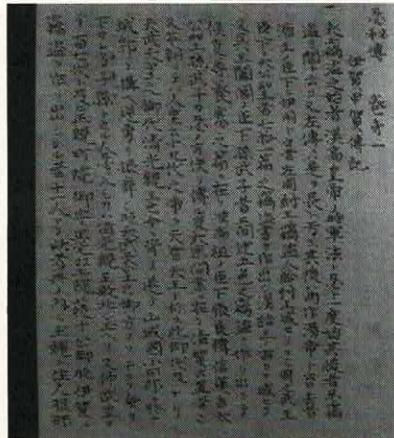
8、伊賀・甲賀の忍術名人(万川集海等)

- 野村の大井孫大夫
- 新堂の金藤小太郎
- 楠岡の伊賀崎道順
- 下柘植の木申太郎
- 同じく小申八郎
- 上野の高場左兵衛(左四郎)
- 神戸の小南
- 山田の八衛門
- 音羽の城戸弥兵衛
- 甲賀の太郎左衛門 玉滝の服部美作守とも。
- 同じく高山太郎次郎 甲賀の中都寺左門とも。
- 伊賀付差出帳に記載の忍之衆との関わりは不明である。
- 野村の大井孫大夫

9、神君伊賀越え(伊賀者代由緒記等)

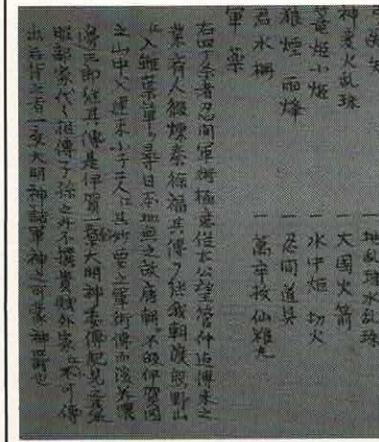
- 天正10年本能寺の変後の家康の逃避行。
- 由緒書、徳川実記などで語られる最大難難。
- 200人余の伊賀、甲賀侍が同行したと伝える。
- 供奉し警衛の功績として伊賀組が結成との説。
- 伊賀越えの経路、日数、人員等については不明確。
- 甲賀の小川から神山、伊賀丸柱、柘植、伊勢鹿伏兎。
(桜峠越え)
- 小川から多羅尾、丸柱、柘植。(御斎峠越え)
- 小川から信楽、油日を通過し柘植から鹿伏兎。(甲賀越え)
- 柘植三之丞が興した鉄砲術がある。(柘植流鉄砲書)

3、忍 秘 伝



伊賀甲賀伝記
竊盜は漢の時代に軍法と共に始まり、間という。
…太公望や孫子が竊盜の書を作った。日本では天武天皇の時代に多子弥が忍びに入った…

2、忍 間 太 阳 之 卷



忍間軍術の極意は太公望以来、秦の徐福に伝えられ、我國に渡来した後に伊賀の山中に入り、連れてきた二人の子に伝授され、美濃辺三郎が伝を継いだ。

10. 忍術の起源伝承一覧

- ・神代に大伴氏の祖先天忍日命や道臣命を祖とし甲賀伴党に伝承する。
(甲賀忍之伝由来記、伊賀問答賀士誠)
- ・神代大己貴命、少彦名命を祖として蜘蛛縛り、熊曾絞めとして始まる。
(甲賀流忍術秘書、甲賀古流武門必要神秘忍術)
- ・神代素戔鳴尊、無名雉に始まる。(用間加条伝目口義)
- ・神代天穗日命を祖とする出雲神伝である。(出雲神流秘奥)
- ・日本武尊が熊襲退治の際に忍術を用いた。(熱田流剣道)
- ・聖德太子に仕えた甲賀馬杉の杉原斎入(大伴細人、細入)を祖とする。
(辻氏家伝、忍術奥義伝、甲賀由緒概史略)
- ・甲賀馬杉の辻伊賀守が上記の馬杉家伝忍術を大成した。
(辻氏家伝、間林精要)
- ・徐福に従って渡来し熊野に入った二人の従者に発する。
(忍秘伝の内、忍間太陽之巻)

- ・往古竹内宿祢を祖とする。
(扶桑流兵法伝書)
- ・古の御色太夫(御由路多由也)が伝えた。
(伊乱記)
- ・甲賀三郎兼家を祖とする。
(望月家伝承)
- ・秦氏の一族である喜多兵官が伝えた。
(甲賀花木堂伝承)
- ・禁裏御税所の丹波村雲大領雄長麿を祖とする。(忍之法由緒)
- ・成務天皇の皇子の臣21人に発する。
(甲賀忍之源記)
- ・南部家には齊藤兵部が、初祖より忍術を以って仕えた唐家があった。
(唐家系図)
- ・天智天皇に仕えた陀古也があった。
(忍秘伝)
- ・伊賀服部平左衛門を、けぶりの末とする。
(忍法秘卷)
- ・鎌倉時代に朝廷の大内記であった甲賀内貴氏より発する。
(内貴氏由緒)
- ・甲州武田の臣、山本勘助、馬場美濃守が詮議。
(老談集)
- ・異国の羲桂仙が伝えた。
(一佐流伝書)

- ・新田家の臣、篠塚伊賀守を祖とする飯綱の術から発する。(飯綱之書)
- ・源義経や楠木正成を祖とする。
(義経流、楠流兵法伝書)
- ・熊坂長範を祖とする。
(引光流忍法註書)
- ・伊賀、甲賀の忍術名人11名(四十九人)が各々流を立てる。
(伊賀国忍術秘法、万川集海)
- ・藤原千方の臣、金鬼・風鬼・水鬼・隠形鬼を初めとする。
(新編伊賀地誌)
- ・支那武将より伊賀、甲賀の人々が学ぶ。
(伊賀旧考)
- ・阿蘇山中の竜神仙人なる女性よりの伝来。
(竜神流忍術伝書)
- ・山窩起源説(乱破・透破・突破)
(三角寛の創作伝承か?)
- ・遁甲方術を忍術と解釈した起源説。
(日本書紀より)
- ・中国兵法(武經七書)、特に孫子の用間篇を起源とする説。
(淵源を古代中国にある様に記し権威付け。正忍記、万皮集海)

御静聴頂き有難う御座いました。